

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 戸田小学校 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

校長名 山内 タ

学校教育目標

学校経営の方針

ゆめをはぐくみ 未来にはばたく 戸田っ子の育成

- ・社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの推進
- ・確かな学力の定着に向けた主体的で対話的な深い学びのある不断の授業改善
- ・児童の安心・安全確保に向けた環境整備の充実と組織づくり
- ・個に応じたインクルーシブ教育及び校内支援教育体制の推進と改善
- ・開かれた学校づくりによる保護者や地域、関係機関等との連携と協働

今年度の重点目標

- ・心の教育の推進
- ・学びの基礎・基本や個の視点を大切にする教育
- ・健康・安全教育の推進
- ・開かれた学校づくりの推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果○と課題●	次年度への具体的な改善策
児童が充実した学校生活を送られよう努めている。	1	・安心・安全な学校・教室環境をした。 ・「楽しい」と感じる充実した授業を行った。	○児童の学校生活の様子やアンケートから、児童は、概ね楽しく学校に通っているといえる。 ●教員は、児童が充実した学校生活を送ることができるように努めているが、学校に通うことを「楽しい」と感じられない児童がいることも見逃せない。	【児童が楽しいと感じる学校】 ・児童が、「わかる・できる・楽しい」と思える授業づくりを行う。 ・学級活動や児童会活動で、児童を中心に創意工夫した活動を行うことによって、成功体験の場を増やす。 ・全教職員で、児童の情報を共有し、児童の心に寄り添いながら指導や支援に生かす。
児童一人一人を見守りながら、学校生活全般の指導を行っている。	2	・スクールカウンセラー、元気アップアシスタントなど多くの教職員が情報を共有した。	○スクールカウンセラー、元気アップアシスタント(相談員)など多くの教職員で情報を共有し、児童の悩みに対応している。 ●保護者、児童と教員との意識の差があった。 ●児童が、先生たちに見守られているという安心感がもてるようにすることが大切である。	【安心・安全な学校】 ・全教職員による児童指導・支援体制の充実 ・教職員が意識して多くの児童に声を掛けることで、安心して生活できるようにする。 ・相談、支援が行える環境づくりを今後も継続して行う。
学校たより・学年たよりなどの文書や、ホームページ等により、学校の様子を伝えている。	3	・学校たよりで学校全体の様子、ホームページで各学年や行事の様子、学年たよりで来月の予定やお知らせ、学級たよりで学級の様子を伝えた。	○学校だよりやホームページで、学校の様子を伝えることに努めた。 ○連絡メールでは、緊急の案件に関して、必要な情報を届けることができた。 ●学校であったことを話している児童は概ねいたが、反面、話していない児童もいた。	【学校からの情報発信】 ・今後も、学校の様子を伝えるために、学校だよりやホームページでの情報発信に努めていく。 ・学校で、児童がホームページを閲覧する機会を設け、家庭での話題作りの一助とする。

保護者、地域の方々の支援により、教育活動が行われている。	1・2・3	・学習ボランティア、見守り隊、PTA活動との連携や協働を行い、教育活動を行った。	○保護者、教職員共に高い数値となっていることから、多くの人が地域との連携や協働を実感していたといえる。 ●児童には、地域への感謝や意識を高めるような働きかけが必要である。	【地域との協働の推進】 ・戸田っ子タイム(地域との協働活動)の推進 ・戸田小サポート隊(学校支援ボランティア)による教育活動支援と環境整備の整備・充実 ・地域素材を生かした「生活科」「総合的な学習の時間」の充実
児童が、自主的に挨拶できるよう指導を行った。	2・3	・学級での声掛けをしたり、朝会で話題としたりし、挨拶ができるよう意識を高めた。	○学校の中では、進んで挨拶をしたり、挨拶を返したりする児童が多かった。 ●挨拶をされても恥ずかしがったり、慣れていなかったりして、挨拶を返すことに苦手意識を感じる児童も見られ、コロナ禍を経て、大きな声を出すことを避けている傾向が感じられた。 ●保護者アンケートでは、挨拶における課題についての記述が多くあった。	【コミュニケーションの活性化】 ・挨拶を広める活動を児童会主体で取り組み、コミュニケーション力の向上を図る。 ・挨拶の意義を考え友達との関係をつくることで、温かい学級経営につなげていく。
児童が、ルールやマナーを守れるよう指導を行った。	1・2・3	・言葉遣いへの注意やルールの遵守への声掛けを各クラスで行った。 ・職員会議や打合せで児童の様子について各担任が報告し、全体での指導の仕方の共有化を図った。	○毎年取り組んでいる「エコ活動」は、戸田小学校の特色となっている。 ○廊下歩行や学校施設の使い方等については、概ね守られていた。 ●休み時間など、児童同士の関係の中で、適切でない言葉遣いが聞かれた。 ●下校時や放課後のトラブル、SNSのトラブルが増えた。	【お互いを認め合える人間関係の育成】 ・自発的・自治的な学校活動と児童会活動の充実を図る。 【問題行動の未然防止と早期発見】 ・「戸田小スタンダード」の見直しと、学校と家庭でルールやマナーの共有化を図り、児童自ら判断し、適切な行動がとれるように支援する。
児童の心情に寄り添い、心の健康を維持できるよう、連携を図りながら指導を行った。	1・2・3	・いじめアンケートを各学期で行った。 ・職員会議や打合せで各担任、養護教諭が児童の様子について報告し、COや児童指導が注意すべき点や状況について全職員に伝えた。 ・スクールカウンセラーとの情報共有を密にした。	○アンケートや個別相談、日常会話・行動観察から児童の様子を把握し、職員間で共有し、児童理解に努めた。 ○児童指導上の問題の解決に向けて、学校でチームとして取り組んだ。 ●担任だけでなく、他の教職員(教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、相談員等)にも相談できることの周知が必要であった。	【自己肯定感を高める指導と支援】 ・全教職員による児童指導・支援体制の充実を図る。 ・児童が安心して学校生活が送れるよう、今後も継続して、相談体制の整備に努めていく。 ・子どもの居場所を多く作ることで、安心して登校できる環境を整える。
児童は、進んで学習に取り組もうとしている。	1	・週に1回、朝読書を行った。 ・体力づくり週間を設けた。	○読書活動や自主学習、体を動かすこと等で、児童が日々進んで行う姿が見られた。 ●保護者の達成値が3.08、教員の達成値が3.12となっており、他の項目に比べると低い傾向にあり、児童の学習の取り組み方への課題が挙げられた。保護者アンケート(記述)でも、「進んで学習することに課題がある」という記述が多くあった。	【知的好奇心に働きかける「わかる・できる・楽しい」授業づくり】 ・基礎・基本的な学力の確実な定着 ・読書活動の推進と学校図書館の活用 ・児童同士の学び合いによる思考力・表現力の向上 ・タブレット端末を生かした授業の工夫

一人一人に応じた支援を十分にしている。	1	・個別の学習支援体制を整えた。 ・保護者との面談で情報交換し、支援シートを活用した。	○支援を必要とする児童について、随時、ケース会議を開き、支援策(学習支援や生活支援)を講じてきた。 ○学習の状況に応じて、個別指導を設け、複数の教員で児童を支援する体制をとった。 ●児童の達成値が3.07となっており、学習への苦手意識をもっている児童がいることがうかがえた。	【自己肯定感を高める指導と支援】 【基礎・基本的な学力の確実な定着】 ・全教職員による支援体制の充実を図る。 ・誰もが参加できる授業づくりと、誰もが安心して過ごせる環境づくりに取り組む。 ・児童が安心して質問したり発言したりできる授業づくりに取り組む。
体験活動や地域素材を生かした授業をしている。	1・2・3	・各学年で体験活動や地域の人材を生かした授業を行った。	○保護者と教員の達成値が3.5以上となっており、本校での体験的活動や地域の素材を生かした授業への認知が浸透してきていることがうかがえた。 ○地域素材(ふれあい農園等)を生かした教育活動について、保護者から好意的な記述が多くあった。	【地域との協働の推進】 ・戸田っ子タイム(地域との協働活動)の推進 ・戸田小サポート隊(学校支援ボランティア)による教育活動支援と環境の整備・充実 ・地域素材を生かした「生活科」「総合的な学習の時間」の充実
児童が、自ら健康を保持増進できる保健教育を、日常に学校生活全体を通して取り組んだ。	1・2	・養護教諭が保健の内容の授業を行い、健康についての意識を高めた。 ・保健だよりを発行し、健康推進についての情報を発信した。	○学校、家庭ともに、規則正しい生活習慣について、子どもたちに日常的に伝えていた。 ●児童アンケートでは、高学年になるほど「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答する割合が高い。	【健康を保持増進できる自己管理能力の育成】 ・健康教育(保健、安全、食育、運動、環境)の推進について、今後も継続して行っていく。 ・生涯にわたる健康の基礎として、各家庭の生活の中での基本的な生活習慣の確立の大切さについて、引き続き伝えていく。
安全教育を効果的・日常的に行った。	2・3	・登校班長会議を各学期で開催した。 ・交通安全教室を開催した。 ・月に1度、教員が通学路に立ち、登校指導を行った。	○児童は、概ね交通ルールを守れていると回答した。登校班長会議や下校指導、交通安全教室等を通して、ルールを守ろうとする意識につながっていることがうかがえる。 ●自転車用ヘルメットや防犯ブザーの着用について課題がある。 ●大型商業施設ができたり、区画整理事業によって、交通量が増えている。	【安全教育の推進】 ・安全な道の歩き方、自転車用ヘルメットの着用等、命を守る行動ができるよう、引き続き、地域や保護者の方と協力して取り組む。 ・自転車用ヘルメット、防犯ブザーの着用率100%を目指し、啓発に努めていく。
清掃用具を適切に管理し、常に清潔な環境を維持した。	2・3	・環境委員会が清掃用具の整理整頓を呼び掛け、それを視覚化できるようにした。	○概ね適切な教育環境の維持ができていた。子どもたちが健康で学習に集中して過ごすためには、清潔で安心・安全な環境の維持が欠かせないと感じている。 ●日常的な清掃活動をしていても、校舎の構造上、清掃の行き届きにくい箇所があった。	【清潔で学習に適した環境の維持】 ・校舎の構造上、清掃の行き届きにくい箇所については、教職員が意識して環境整備を行う。 ・児童が、自ら快適な生活環境を築けるように、委員会活動や清掃活動の充実を図る。
児童に身体を動かす楽しさを伝えたり、外遊びを促したりした。	1・2・3	・体育委員会が休み時間に放送をし、外遊びを促した。 ・各学級で、ロング昼休みにクラス全員で遊ぶ時間を設けた。 ・体力づくり週間で縄跳びを推進し、縄跳びカードを配って自主的に取り組めるようにした。	○約8割の児童が、体を動かして遊んでいると回答した。広い校庭で、のびのびと遊べる環境があることは、本校の良さといえる。 ●休み時間に本を読んで過ごす児童もいるので、質問内容の見直しが必要である。 ●体力・運動能力について、全国調査で平均より下回っていたことが課題となっている。	【体力づくりの主体的取組】 ・感染症の制限が解除され、様々な運動ができる機会が増えていくため、本校の環境を生かし、体育や学校生活で運動の楽しさを伝え体力向上に努めていく。 ・児童委員会による取組の推進 ・外遊びの励行

アレルギー対応等を含め、給食指導を安全に適切に行った。	2	・アレルギーのある子について、職員全員で情報共有を図った。 ・給食の献立表を保護者に確認していただき、担任だけでなく、填補に入った教員も確認できるようにした。	○給食委員会の取組(栄養黒板の掲示・給食放送等)や栄養士による訪問指導等により、食に関する児童の興味関心を高めることができた。 ○給食指導(衛生・栄養・食事のマナー等)や食物アレルギー対応について、職員間で共通理解をし、指導の充実を図ることができた。	【健康を保持増進できる自己管理能力の育成】 ・次年度から、状況に応じて、グループで向き合って給食を食べる形にしていく予定である。 ・マナーを守って安全に給食の時間を過ごすことができるよう給食指導の充実を図る。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
・学校教育アンケートのまとめを通して、本年度の戸田小学校の取組とその成果と課題、改善策を共有した。そして、次年度における「学校教育目標」と「学校経営方針」について承認を得た。 ・「にじの教室」と「戸田カフェ」を統合し、新たに「戸田っ子タイム」として教育課程に位置付けることによって、子どもたちの学びの場が広がることへの期待が寄せられた。また、次年度から、相川地区で「地域学校協働活動」がスタートするので、地域と協働した教育活動を通して、特色ある学校づくりを行っていくことについて確認した。 ・新型コロナウイルスが5類に分類され、様々な活動が行われるようになった。児童が体験する活動が増えたことは喜ばしいことであり、地域の中でのびのびと成長してほしいとの思いが一致した。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
児童の自己肯定感を高め、未来を拓く力を養いたいと考え、学校教育目標に「自信をもって」を付け加えた。そして、児童が「楽しい」を実感し、毎日来たいと思える学校づくりを目指して、「戸田っ子育成方針」を設定した。子どもたちが、共に学び、共に育ちながら、学ぶことの楽しさ、人を思いやることの大切さ、命の尊さを実感できるように、教職員一同、力を合わせて、教育活動を推進する。				